

### 3 家畜を起因とした災害事例 ～原因と対策～

#### 災害事例 1

#### 凍結した牛舎エプロン部で、牛に引っ張られて転倒

傷病名：左肩関節捻挫、左肘打撲及び擦過創、頸椎捻挫

傷病の程度：全治2カ月

#### ◆ 災害発生状況

繁殖室から牛舎へ牛を戻す際、牛が別方向へ移動しようとした。手綱を引き制御しようとしたところ、牛舎エプロン部分が凍結していたため、転倒した。（エプロン：建物出入口のコンクリート打ちされた平面）



#### ◆ 原因

- ① 牛舎のエプロン部分が凍結し、その上に雪が薄く積もって非常に滑りやすい状態となっていたこと。
- ② そのような状態であるにもかかわらず、滑り止めのための融雪剤や砂の散布を行っていなかったこと。

#### ◆ 対策

- ① 冬季は融雪剤や砂を常備し、天候に応じて散布すること。
- ② 凍結面の上では無理な動きをしないこと。

## 災害事例 2

### フリーストール内で牛に頭突きされ飛ばされる

傷病名：右膝裂創

傷病の程度：10日間の加療

#### ◆ 災害発生状況

フリーストール牛舎で妊娠鑑定作業を行っていた際、**背後から忍び寄ってきた牛に複数回頭突きされ、スタンション柵(高さ1.4m)を飛び越えて飼槽側に投げ出され、着地時に右膝を裂創。**



突き上げた危険牛

**危険牛は作業前に係留または隔離する！**

#### ◆ 原因

- ① 当該牛は危険牛として赤い頭絡を装着し、注意喚起していたが、**妊娠牛を探すことに気を取られ、危険牛に気付くのが遅れたこと。**
- ② 携帯用超音波診断装置を持っていたため退避行動が遅れたこと。

#### ◆ 対策

- ① **危険牛がいる牛房では、危険牛を牛房扉で追い込むか、スタンションロックしてから作業を開始すること。**
- ② **危険牛がいる牛房では、2名以上で作業を行うこと。**

## 災害事例 3

### 牛の直腸検温をしようとした際、後脚で2回蹴られる

傷病名：右膝打撲

傷病の程度：全治1週間

#### ◆ 災害発生状況

直腸検温を行うため、5頭の成雌牛をスタンションに保定し、**後方からいきなり肛門に体温計を差し込んだ際**、不意に牛が**右後肢を蹴り上げ**、右膝内側を2度蹴りつけられて受傷した。



#### ◆ 原因

当該牛は気性が荒いが、当日は落ち着いていたため、**油断して声かけ等を行わず**に作業したこと。

#### ◆ 対策

検温や注射等、**牛が嫌がる作業を行う場合は、声かけや牛に触る**などしながら、**細心の注意を払いつつ作業を進めること**。

また、対象牛だけでなく、**隣や近くにいる牛の動きにも注意すること**。



## 災害事例 4

### スタンションに手を入れ、牛の頭とパイプに挟まれた

傷病名：右手打撲

傷病の程度：軽傷

#### ◆ 災害発生状況

スタンションのロックを解除したが牛が動かず、牛の首が入る所から頭部側に手を入れて追い出して移動させようとしたところ、牛が頭を上げたためにスタンションの上部パイプと牛の頭との間に右手を挟まれ受傷。



牛の入っているスタンションに手を入れると挟まれる！



#### ◆ 原因

- ① 被災した作業員は採用されたばかりで、スタンションに入っている牛の行動を予想できなかったこと。
- ② 牛が入っているスタンション部分に手を入れて追い出そうとしたこと。

#### ◆ 対策

- ① スタンションの構造と予想される牛の行動について事前に説明すること。
- ② 牛を追い出す際は、首の入っていないところから行うこと。

## 災害事例 5

### 牛が誘導柵に突進し、指を引き綱と誘導柵の間に挟まれた

傷病名：右第1末節骨骨折、伸筋肉腱断裂(マレット指)

傷病の程度：10日間の休業

#### ◆ 災害発生状況

肥育牛の出荷作業において、出荷牛(920kg)の頭絡に繋いだロープを引き、誘導柵に移動させようとしていたところ、牛が急に誘導柵の中に突進し、ロープを持った右手親指が、ロープと誘導柵鉄柱の間に挟まれ受傷。



#### ◆ 原因

- ① 牛が急に突進したこと。
- ② 突進した牛を制止しようとして、とっさにロープを強く握ったこと。

#### ◆ 対策

- ① 慣れている牛でも、出荷作業など非日常的な環境に置かれると、牛は興奮し予期せぬ行動を取ることを認識し、十分注意しながら作業すること。
- ② 牛を引くロープを扱う際は、急な行動にも対応出来るよう、いつでもリリース可能な状態にしておくこと。

## 災害事例 6

### 乳房炎牛の前搾りで足を踏まれる

傷病名：右母趾基節骨骨折

傷病の程度：全治2ヶ月

#### ◆ 災害発生状況

乳房炎牛の前搾りをするため、牛に触りつつ、牛体左側乳房付近にしゃがんで右前乳頭から作業を始めようとしたところ、牛が**突然被災者側に尻を振り、左後肢で右足甲部分を踏まれた**。安全長靴は履いていたが、先芯により保護されていない部分を踏まれたために受傷。



牛の蹄の着く範囲内には  
できるだけ自分の足を置かない！

#### ◆ 原因

- ① 牛の蹄の着く範囲内に右足を置いていたこと。
- ② 牛の踏み換える動作を見逃し、退避行動が遅れたこと。

#### ◆ 対策

- ① 牛の蹄が着く範囲内に足を置かないこと。また、右足に重心を置かないこと。
- ② 乳房炎牛の搾乳では脚を上げることが多いため、動作を見逃さないこと。



## 災害事例 7

### 削蹄中、牛が動いてグラインダーが手に当たり受傷

傷病名：左第1指裂創

傷病の程度：軽傷

#### ◆ 災害発生状況

削蹄作業用グラインダーを用いて削蹄中、保定中の牛が動いたため、右後肢に当てていたグラインダーが蹄に強く接触して弾かれ、蹄に添えていた左手親指にグラインダーが接触し受傷。



正しい装備で作業を！



「牛の護蹄マニュアル」  
(社)畜産技術協会 より

#### ◆ 原因

- ① 保定が不十分だったこと。また、受傷する危険性のある位置に左手を添えて作業を行っていたこと。
- ② 薄いニトリルグローブを装着して作業していたこと。

#### ◆ 対策

- ① 保定を確実に行うこと。
- ② 革手袋や耐切創の手袋を用いて作業を行うこと。

## 災害事例 8

### 馬が後肢を高く蹴り上げて、蹄が顔面に当たった

傷病名：顔面打撲

傷病の程度：3日間の安静

#### ◆ 災害発生状況

馬の体重測定を行うためパドックで馬を捕まえる作業を行っていた際、捕まえた馬が逃げたことから、その馬に近づいていったところ、馬が**突然跳びはねて後肢を高く蹴り上げ、蹄が作業員の顔面に当たり受傷。**



**興奮した馬には近づかない！**

#### ◆ 原因

- ① 馬の動きが**落ち着かないうちに捕まえようとしたこと。**
- ② 事故が起きたときはパドックにいた馬の頭数が少なく、動き回れる範囲が大きかったこと。  
また、蹴り上げた馬が若齢馬で成馬に比べて**落ち着きがなかったこと。**

#### ◆ 対策

- ① 馬を移動した後、**馬の動きが落ち着くまで待ってから捕獲すること。**
- ② 馬の急な動きを感じた時は、互いに声かけを行い注意喚起すること。



## 災害事例 9

### 豚房の清掃作業の際、豚に後ろから突かれた

傷病名：右大腿部裂創

傷病の程度：全治3週間

#### ◆ 災害発生状況

雄豚の豚房に入り、畜舎の清掃作業を行っていた際、豚が背後から突進してきて、豚の牙が右大腿部に当たり受傷。



給仕してから豚房に入ること！  
豚の前には立たないこと！



#### ◆ 原因

清掃の**作業手順**(予め給餌をおこない、採食に夢中になっている際に作業を行う。)を守らず、給仕せずに**豚房に入り清掃作業**を行ったこと。

#### ◆ 対策

清掃作業等を実施する際は、豚に**給餌により誘導し、安全を確保してから作業**を行うか、または**豚を他の単房等に移動してから行うこと**。

## 災害事例 10

### 山羊の削蹄中、他の山羊に耳を咬まれる

傷病名：咬傷

傷病の程度：全治1週間

#### ◆ 災害発生状況

パドック内で山羊の削蹄作業を行っていた際、他の山羊が作業員のヘルメットの顎紐に興味を示し接近してきて、顎紐に加えて作業員の耳も咬んだため出血した。



山羊は好奇心が強い！  
山羊の歯は鋭い！

#### ◆ 原因

- ① 山羊は好奇心が強く、ヘルメットの顎紐に興味を示す認識が薄かったこと。
- ② 削蹄対象の山羊と他の山羊を分離して作業していなかったこと。
- ③ 削蹄作業に集中し、他の山羊の接近に気が付かなかったこと。

#### ◆ 対策

- ① 削蹄作業は、他の山羊と分離して行うこと。
- ② パドック内では、常に山羊の動きに注意すること。